

WUP ・ PLA 共催国際会議（WUP 世界大会）

開催日程：2023年10月22日（日）～25日（水）

開催地：オーストラリア、アデレード

主催：World Urban Parks、Parks and Leisure Australia

【テーマ】

持続可能な場所、空間、人間、住処：より活動的で、涼しく、緑豊かで、自然に溢れた、インクルーシブな都市をつくる

(Sustainable places, spaces, people and habitats; making cities active, cooler, greener, wilder and inclusive)

【8つのサブテーマ】

人工的な都市環境（Built Facilities）

ジェンダーや年齢や願望や利用の多様性が推進される今日、人工的なインフラストラクチャーに強く求められているのは、柔軟で、安全で、持続可能で、維持管理が容易く、多様な目的に応えられることに加えて、ランニングコストとエネルギー消費が経済的であることです。建物のデザインもその一側面であり、建物にまつわる暖房や照明や空調などのニーズという点でこの課題に関わってきます。スイミングプールの建造には満たすべき固有の要件があります。遊び場や運動コートや散歩道や通路の地表面の処理を、生産工程や維持管理や設置現場で生じる炭素排出とヒートアイランドの影響を最小化できるものにするのも等しく重要です。こうした集合的な課題に私たちはどう対処していけるのでしょうか？

より豊かな緑と自然（Greener and Wilder）

気候変動の進行とともに、気候と生態系と環境適応への配慮がより重要なものになってきています。都市における排熱、水質、大気質、生物多様性の保全といった課題へのとりくみにおいて公園は重要な役割を担います。洪水や豪雨や沿岸部の災害リスクなどの水にまつわる様々な問題への対応を今日の公園は進めています。多くの場所で、大気や水の質の悪化や光害や騒音といった環境汚染が懸念されています。公園はしばしば「都市の肺」と称されますが、その肺となるべき空間は他の活動のためにも求められ、その地表面を固く舗装しようとする圧力も存在しています。より多くの緑で都市を覆うことも極めて重要ですが、生態系への配慮は木々を育てることばかりではありません。自然についての説明や教育もまた、社会全体の知識を向上させ、自然がもたらす便益についての理解を深めるための重要な要素となります。

人間と植物と動物にとって暮らしやすく持続可能な屋外空間を確保するために、私たちには何ができるのでしょうか？

スポーツと動的レクリエーション（Sport and Active Recreation）

屋外か屋内かを問わず、スポーツや身体を動かす活動は私たちのコミュニティの文化の中心的な地位を占めています。スポーツや身体を使うことは暮らしに意味を与え、他人とのつながり、健康と体力の増進、精神的なウェルビーイング、さらにはリーダーシップや個人的成長につながる様々な機会をもたらしてくれます。地域でスポーツチームをつくることは身体活動の促進に重要な役割を担いますが、コミュニティの人口構造によってはそれも難しいこともあります。スポーツ団体は標準的なルールを見直し、若者や高齢者など各々の身体能力にあったルールを取り入れるようになってきています。人は年をとるにつれてウォーキングやサイクリングのような決まりごとの少ない活動を好むようになります。幅広い機会を確保するためには、社会的包摂とジェンダーと文化について計画段階で検討することが欠かせません。おそらくはこれまで単に慣習的に配置されてきたスポーツのための空間を再検証することが必要になるでしょう。気軽に参加できる（静的）レクリエーションはとても重要です。スポーツチームに参加したいとか競技として運動したいという人ばかりではないのですから！

それではプログラムのデザインにおいて、コミュニティのニーズに応じた柔軟かつ十分な利用がみこめる機会を促進するという課題に私たちはどうとりくんでいるのでしょうか？

文化と視点 (Culture and Perspective)

「すべての人のための公園」をつくるということが何を意味するかを真に理解することは極めて重要です。公共空間の設置と設計と利用の大部分において度々前提とされているのは、「いつものやりかた」や、最も力のある人々や、最も声の大きな人々や、コミュニティの多数を占める集団の視点からの見解です。世界には植民地的な略奪によって公園がつくられている場所もあり、それが示唆するものは深刻かつ複雑です。銅像やモニュメントのなかには、その土地のストーリーを語ることなく、現在のコミュニティの文化や価値観のみを反映し、歴史を不正確に脚色する人々やできごとを代弁するものもあります。歴史は私たちの教育にとって重要なものであり、先住民の歴史はその一部を形成しています。墓地や（過去の風景や生活様式を扱う）アートギャラリーさえもこうした背景の一端なのです。空間は異なる利用者やコミュニティ集団によって異なる意味を持ちます。世界中を見渡しても、公共のものとして共有される空間は極めて多様な方法で用いられており、それを用いる多種多様な人々やコミュニティ集団の様々な心情や価値観を反映しています。公園がすべての人のためにあるとすれば、たとえばホームレスの公園利用について私たちはどのような最適解を出すことができるのでしょうか？

現代と未来の多様なニーズに応えるために、真にインクルーシブで公平で寛容な社会をつくるために私たちは様々な機会をいかに創出していけるのでしょうか？

シンプルなオープンスペースの重要性 (The Value of Simple Open Space)

都市空間の人口密度が高まるにつれて公共の場はますます人で込み合い、競合するものになります。公共のオープンスペースはますます貴重なものになっています。それらは構築物のない空間であるだけでなく、平穏な休息とコミュニティのつながりをもたらす場所にもなりうるものです。オープンスペースの最大の価値のひとつがそこに「何もない」ことです。しかし多くの場合、公共空間は経済的価値が欠けているとみなされ、公共のインフラストラクチャー（交通渋滞の解消等）や「民営化された」空間や住宅地の拡張にさえ用いられる「自由にしてい」土地として捉えられています。都市には寄る辺ない貧しい人々や住処を追われた人々の住居が公共の公園を占拠することもあります。都市における住宅用地の経済的価値が上昇し続けるなか、公共空間の有形無形の価値と、住宅や（交通・物流の経路のような）インフラストラクチャーのニーズの緊張関係は明白になってきています。

公園と公共空間の価値を高めるために、私たちは都市の経済活動をどのように役立てることができるのでしょうか？

新しい試みとテクノロジー (Innovation and Technology)

都市と人口の成長は、既存のオープンスペースの利用のみならず、従来とは異なる想像力を受け入れうる様々な空間の使い方についても、新たな試みを必要としています。墓地は何百年にわたり都市のインフラストラクチャーの一部となってきたものであり、今日の墓地は霊的なつながりや家族の絆をとりもつ場であるだけでなく、静的レクリエーションのための心地よいスペースとしても新たにデザインされるようになってきています。ため池や排水貯水所やパイプの通り道や各種インフラストラクチャーを設置するための線状地帯は様々なコミュニティに大きな価値を与えます。今日では、屋上庭園や「スロー・ストリート」や遊びに適した街路をつくるといった創造的な試みが登場しています。さらにテクノロジーの躍進は、より精度の高い GIS、管理情報のリアルタイム処理、公園利用や公園での活動に関するデータ、ドローン、自動芝刈機、スマート照明の新技术、市民科学、花や植物の健康状態のリモートセンシングといった可能性を私たちに提示しています。都市空間の様々な利用法を捉えなおすために私たちに何ができるのでしょうか？公園利用のデータ収集はニーズの把握に極めて大きな影響を与えており、おそらくは公園業界で起きている最大の変化といえるでしょう。

自動化技術、センサー、GIS、様々なオンライン・ツール、スマート・テクノロジーは、今日どのように活用されており、その未来はどうなるのでしょうか？

健康とウェルビーイング (Health and Wellbeing)

良質な公園や都市空間がコミュニティのウェルネスや連帯感を高めることを私たちは直感的に知っていましたが、その洞察は今日では数々の知識や研究によって立証されています。それは偶然に生じるものでも、無償でできるものでもありません。近年のコロナ禍は人々が自然と「屋外」にどれほどの価値を認めているかを如実に示しました。公園とオープンスペースが健康とウェルビーイングに与える様々な便益は、健康をもたらすもののなかでも最も効率的かつ効果的に提供できるものに数えられるでしょう。とりわけ遊びの場は、子供から大人まで、身体能力や知力や社会性を養うことのできる場として重要な役割を担います。

より健やかで幸せなコミュニティを都市につくるために、私たちはどのように知識を積み重ね、どのようにこれらの健康便益を促進していけるのでしょうか？

リーダーシップ (Leadership)

今日ではリーダーシップという分野は急速に進展しており、世界規模のコロナ禍以来、リーダーシップをめぐり実に多くのことが論じられてきました。リーダーは同じ社会の一員として人々に最良の結果をもたらし、人々に力と支援を与えることを目指すものですが、それは現代社会において、とりわけコロナ以降のハイブリッド・モデルで動いている多くの職場において、どのようなかたちで実現されているのでしょうか？革新性と柔軟性と好奇心があれば、変化にも率先して適応することができます。学び続けることで、私たちの携わる仕事を最適化するための理解を深めることができます。ベスト・プラクティスが言葉通り「ベスト」と呼ばれるのは、それが私たちの知識を検証し再び構築できたときだけです。チームのリーダーとして私たちは全力を尽くし、人々に力と支援を与えることで、コミュニティへの奉仕をより大きく効果的にすることを目指します。変化する世界において新たな職場環境やツールや社会背景やコミュニティの期待が生まれるなか、成功するリーダーシップとはどのようなものになるのでしょうか？

あなたは今どのようなことを経験し、これまで何を学び、実践のなかでどのような成功と失敗を重ねてきたのでしょうか？そして2024年とその先の未来を前にして、リーダーシップはどのようなものになっていくのでしょうか？

注：このカテゴリーは様々な応募内容を組み合わせたワークショップやパネル討論のためにも用いられます。